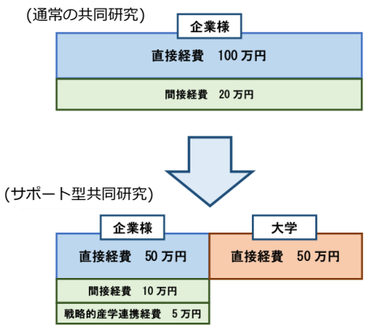
助成金等公募情報

「サポート型共同研究(研究費の一部支援)」の募集期間を延長します

以前お知らせしました本学の新しい共同研究制度「サポート型共同研究(研究費の一部負担)」の募集期間を11月末まで延長することとなりました。
この制度は、本学教員と企業様の共同研究に対して、大学が研究費の一部負担を支援することで、資金不足で共同研究を断念する機会損失を救済し、研究を推進させようというものです。また、一過性の課題解決にとどまらず商品化、実用化まで研究を継続できる制度になっております。
(制度内容)
イ）研究探索型：シーズを試す、ニーズの解決仕掛かり、などの初期フェーズ
ロ）研究加速型：初期確認ができたが、さらに詰めていくフェーズ
ハ）実装加速型：見通しができて、市場投入などの支援がほしいフェーズ
このように、共同研究の深化に合わせて使い分けます。

	タイプ	企業様ご負担額	大学からの支援額
イ	研究探索型	直接経費　50万円	50万円
ロ	研究加速型	直接経費　200万円以上	100万円
ハ	実装加速型	直接経費　500万円	200万円



※直接経費に加え、間接経費及び戦略的産学連携費のご負担をお願いいたします。
直接経費：研究に直接必要となる物件費、謝金、旅費などの経費
間接経費(直接経費の20%)：光熱水費等、研究実施に伴う大学の管理に必要な経費
戦略的産学連携費(直接経費の10%)：産学連携の強化及び促進のために必要となる経費
※契約未締結のものに限ります（すでに締結しているものの変更はできません）。
※令和2年度の募集は9月末までとなります。状況に応じ早期終了する場合もございます。
（例）研究探索型の場合
例えば、共同研究を開始する軒費用が120万円必要なところ、企業様で全額ご負担が難しいという事で断念するような機会損失を救済するために、大学が一部負担50万円を支援して、研究を推進しようとするものです。
この事業は、山梨中央銀行をはじめとする金融機関や諸団体の客員社会連携コーディネータとも協同して支援活動を進めてまいります。

(公財)やまなし産業機構「山梨みらいファンド」

助成事業	内　容	
成長分野スタートアップ資金助成事業	内容	今後成長が期待される分野における起業に要する経費の一部を助成
	対象者	県内に本拠(拠点）を設置して起業する者、県内に本社(拠点)を設置した起業後5年未満の者
	助成金	上限：50万円　助成率：対象経費の2/3以内
江次世代技術活用支援事業	内容	先進的かつ革新的な技術を活用した新たな事業活動に要する経費の一部を助成
	対象者	県内に事業所がある中小企業者又はそのグループ
	助成金	上限：200万円　助成率：対象経費の2/3以内

募 集 期 間　令和2年9月1日(火)～10月30日(金)
採択予定件数　各事業とも4件程度
対象分野、対象技術や助成対象経費、また申請方法や応募要件等、詳しくは、やまなし産業支援機構　HP　(https://www.yiso.or.jp/subsidy/fund.html）をご覧ください。

【発行　2020年10月12日】　国立大学法人 **山梨大学**　研究推進・社会連携機構　新技術情報クラブ事務局
〒400-8510　山梨県甲府市武田4-4-37　TEL：055-220-8758　FAX：055-220-8757
E-mail：renkei-as@yamanashi.ac.jp　URL：http://www.scrs.yamanashi.ac.jp/

NO.2
October
2020

新技術情報クラブ CLUB NEWS

国立大学法人　山梨大学

大学TOPICS

山梨大学医学部附属病院新病棟Ⅱ期棟が開院しました

新病棟外観

山梨大学医学部附属病院新病棟が令和2年9月21日(月)に開院しました。
これは、最新の医療に対応する施設整備や先進医療への取り組みの加速を目指し、平成24年度から本院が取り組んでいる「病院再整備事業」の一環であり、今回の新病棟はⅡ期棟となります。
新病棟は、地上7階建て・延べ床面積13,548.62平方メートルであり、病院全体618床のうちの250床を収容します。
内部には無菌病室エリアを設ける等、高度医療に対応した施設になっています。また、入院患者さんの支援を行う入退院支援センターを設置、小児科病棟には同フロアに院内学級やプレイルームを設置する等、患者サービス機能の充実も図っております。
新型コロナウイルス感染症対応については、ほかの患者さんの動線と重ならないようエリア分けをし、ベッド数7床から最大30床ほどを確保をしております。加えて、新病棟にはこれまでなかった感染症に対応した解剖室が設けられ、必要に応じて解剖がすぐできるようになりました。
今後は旧東病棟の取り壊し、薬剤部等が入る新たな病棟の建設や中央診療棟及び外来診療棟の整備を行う第Ⅲ期工事、その後外構工事を予定しております。
病院の理念であります「一人ひとりが満足できる病院」とともに「理想の大学病院」を目指した挑戦を続けますので、今後ともよろしくお願いいたします。

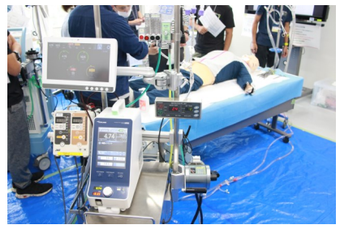
大部屋

病棟廊下・ナースステーション

個室

体外式模型人工肺ECMOを使用した講習会を実施しました

令和2年10月3日(土)、医学部附属病院にて新型コロナウイルス感染症の重症患者治療に用いられる体外式模型人工肺ECMOを使用した講習会を実施しました。本講習会は「厚生労働省ECMOチーム等養成研修事業」として、本院とECMO治療を提供する有志組織である「日本COVID-19対策ECMOnet」が協力することにより実現したもので、山梨県で初めての開催となりました。
講習会には、本院および山梨県立中央病院において集中治療に携わる医師・看護師および臨床工学技士の16名が参加し、ECMOを使用したグループワーク実習を行って、機器使用の手順等を確認しました。
今後も引続き、新型コロナウイルス感染症診療に全力を注いでまいります。

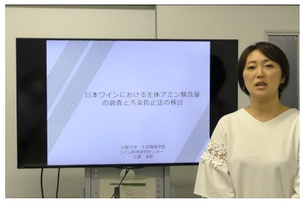


新｜技｜術｜情｜報｜ク｜ラ｜ブ

産学官連携TOPICS、新技術情報クラブ報告

「令和2年度やまなし産学官連携交流事業研究発表会」準備中！

8月18日に配信しましたメールマガジンにて、やまなし産学官連携交流事業の予告を致しましたが、内容が確定に近づいてまいりましたので、その現状をお知らせいたします。
少し前回の重複になりますが、まず最初のエントリー画面に入りますと、参加規約があります。これにご同意いただき、お名前や連絡用のメールアドレスなどいくつかの項目にお答え頂きますと、ご記入いただいたメールアドレスへ展示画面へ入るためのURLを送らせていただきます。これにアクセスしていただきますと、展示内容のTOP画面となります。
現在予定しております内容としましては、大学発表が20件、県発表が10件、特別講演としまして県側からワイン関連の内容が計画されております。
内容を案内いたしますチラシを現在作成しておりまして、出来上がり次第、皆様にもお渡しする予定です。なお、各動画のエンディングは右下のような表示が出ますが、その画像枠のところに、質問・問い合わせができる入力画面がありますので、もっと知りたい、直接研究者に会いたいなどの入力ができるように予定しております。
もちろん、新技術情報クラブの会員様につきましてはメールやお電話でお問い合わせいただければ、会員サービスとして優遇させていただこうかと考えております。ぜひご期待ください。



研究発表の様子

エンディング画像

新技術情報クラブ交流会

本年度のコロナ禍でイベントが開催できない状況が続いておりまして、会員の皆様には申し訳ございません。但し、このところ緩和の傾向がありまして、遠隔と現場配信のハイブリッドが見られ始めました。
対策をとった現場にて録画もしくは実配信を合わせて開催をして、皆さんに視聴していただく形式で、ハイブリッド型などと呼んでおります。
例えば、株主総会の実施では2月の時点から経済産業省では、「ハイブリッド型バーチャル株主総会の実施ガイド」を提唱しております。取締役や株主等が一堂に会する物理的な場所で株主総会(リアル株主総会)を開催する一方で、リアル株主総会の場に在所しない株主がインターネット等の手段を用いて遠隔地から参加／出席することができる株主総会を言うそうです。
https://www.meti.go.jp/press/2019/02/20200226001/20200226001.html
大学では特に理科系の場合に実習をしないと体得できない内容では、通常では実習室に参集して、指導者やアシスタントとともに工作などを実施するのですが、部品や設計図などを各家庭に配送して、実習室には班分けしたグループごとに指名した代表者のみ出席して、ビデオ配信をそのほかの学生が見ながら、自宅にて実習をするという形も取られたりしております。そんな授業用WEBシステムもかなり進化しているようですが、1人の教員が40名以上を担当するケースもありますから、対応に難な時もあるそうで、画面から顔が消えてしまうケースもあるそうです。また、実験を見るだけだと理解が進まないという話もあります。
さて、新技術情報クラブが毎年3回予定で開催しております交流会につきましても、飲食を伴う形式は難しいと思われますが、このような形を参考としながら、交流会を年内には実施しようと企画をしております。
参加総数が10名くらいでしたら、広めの部屋にて会議を行うことも始まっておりますので、希望者には大学に来ていていただいて交流会を行いまして、リアル配信をすることで参加できない方にも見ていただけるようにしては、と考えております。
話は変わりますが、各会員さんを訪問することを再開したいと考えております。担当からご都合をお伺いしますので、ぜひご利用いただければと思います。

医療機器参入促進セミナーのご案内

メディカル・デバイス・コリドー推進センターでは、医療機器産業への参入促進を目的としたオンラインセミナー(参加費無料)を開催します。医療機器産業への参入または取引拡大を希望する県内外企業のご参加をお待ちしています。

日　　時　：令和2年10月23日(金)　14:00～16:00　　オンライン(zoomビデオウェビナー）にて開催
プログラム：基調講演1　山梨大学の取り組みについて(仮)　　岩﨑　　甫　　山梨大学副学長
　　基調講演2　医療機器事業化にあたっての心構え　妙中　義之　ﾒﾃﾞｨｶﾙ･ｺﾘﾄﾞｰ推進ｾﾝﾀｰｽｰﾊﾟｰﾊﾞｲｻﾞｰ
　　参入促進セミナー　医療機器産業への参入における業許可について～業許可をビジネスに繋げる～
　　小平　直　せたがや行政法務事務所　行政書士
詳しくはhttps://kofucci.or.jp/news/20200925-1/よりご覧ください。

新｜技｜術｜情｜報｜ク｜ラ｜ブ

コーディネータ による 【研究者紹介】

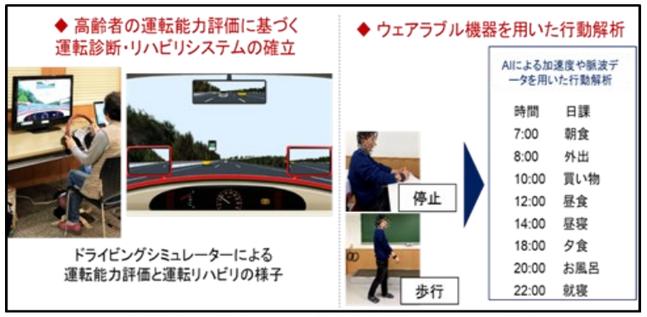
機械工学科　　伊藤　安海　教授

今回は工学域　機械工学系(機械工学)の伊藤安海教授をご紹介します。
先生は「安全医工学」の研究に取り組んでおられます。
内容としましては、工学と医学とを融合させて、安全・安心な社会を構築するための特別な要素技術や機器開発、さらにそれを活用した社会システムを構築するための研究に取り組んでいます。主な研究は次の通りです。

伊藤 安海 教授（研究室にて）

1.高齢ドライバー運転診断リハビリシステムの開発

高齢者の安全運転寿命をできる限り延ばすための運転能力評価に基づく運転診断の研究を行っています。具体的には、ドライブシミュレータを使い、様々な検査等と組み合わせたトータルの運転診断・リハビリシステムを使って、10年程前から富士河口湖町と連携して社会実験を行っています。



高齢者生活支援のための健康長寿社会システムの提案

2.人体損傷評価についての研究

人体損傷評価とは、コンピュータシミュレーションを人体に適用させて、この人の骨だったらどういう力で、どの辺が折れるだろうかといったことを高い精度で解析する技術です。この技術で評価した材料の組み合わせでデザインした、転倒しても骨折リスクの低い床材の提案や、介護支援ロボットから身近な生活支援機器までの安全性評価など、多岐にわたる活用ニーズに対応するための新しい提案が可能となりました。

機器の安全性評価や科学捜査のための人体損傷評価手法の開発

3.皮膚損傷発生の力学的メカニズムの解明と要望技術の開発

手術等によりうつ伏せ状態が長くなった結果、顔に褥瘡(じょくそう)※などの皮膚損傷が発生する場合があります。この褥瘡はどれくらいの程度で出現するのか、どういう対策が必要かなどについて工学的な技術を生かして、解明に取組んでいます。

地域企業との連携の可能性ですが、特に県内、県外でIT系のベンチャー企業と連携し、研究を行ってきた結果、様々なデータの集積が進んでおり、いろいろな分野の企業との連携が可能な状況となっています。

※寝たきりの状態をきっかけとして、皮膚の血流が滞ってしまうことで生じる皮膚の病変などを言う。

今後のイベント情報

新技術説明会
New Technology Presentation Meetings!

研究成果(特許)の実用化(技術移転)を目的に、新技術や産学連携に関心のある企業関係者の向けて行う特許の説明会です。
今年度、本学はWebサイトに発表資料を掲載する形で開催します。
　会期：令和２年12月３日(木)～
　会場：https://shingi.jst.go.jp/kobetsu.html
　　※登録が必要になります(無料)